



農業知識広場

農へのこだわり

石井 實 技術主幹

〜知っててよかつた〜



果物作りは天候で味が変わりますが、施肥・防除・剪定などの基本管理ができて品質の高い果実ができます。

『果物の糖度の決定要因』

●果物の糖度が高くなる条件

果物の糖度が高くなるには晴天が続く、光合成が十分行われ、糖に転換されるデンプンが多く生産されることが重要です。

年により果物の糖度が異なるのは、その年の気象条件に起因します。日本では果実の肥大期に晴天が少ない年が多く、光合成が十分できません。さらに土壌からの水分の供給が多くなり、果実の糖度が上昇しない現象が起こります。雨が多い年は糖度が低く、味も薄くなり、逆に雨が少なく晴天が続くと土壌が乾燥すると糖度が高くなります。

この現象は全ての果物でおきる現象です。

●土壌水分と果物生産

降雨がなく土壌が乾燥しすぎると、すべての果物で果実は肥大が抑制され小さくなり収量も減少します。さらに酸の減少が抑制され、食味が悪くなります。また、土壌が乾燥し水分不足の状態では降雨があると、急に果実が肥大し裂果が発生して大幅な減収となります。

●水分コントロールによる果物生産

果物のハウス栽培は気温や土壌水分コントロールが可能で高品質な果物生産が可能となります。

ブドウの根域制限栽培や温州ミカン、マルチドリツブ栽培、ボックス栽培は、土壌水分をコントロールしながら高品質の果実生産を目指す栽培法です。晴天が続く光合成が十分できる状態で灌水を行うことで、糖酸のバランスのとれた果実が生産できます。

今月の農作業

【タマネギの追肥】

タマネギは、年内に十分に根を張らせ、春になったら勢いよく育つようにすることが大切です。また、年内に肥料(窒素)を効かせすぎると耐寒性が低下します。また、年明けからの追肥のタイミングが遅れると貯蔵性が低下します。

- 1回目 定植後半月から1ヶ月後
- 2回目 早生品種 1月上旬
- 中晩生種 1月中旬
- 3回目 早生品種 2月中旬
- 中晩生種 2月下旬

【越冬管理】

キヌサヤエンドウやソラマメなど、越冬させながら栽培管理をする野菜もありますが、寒い地域や特に寒い年は、ワラやモミガラ、不織布などで保温をしてください。

水稲農家組合員に緊急支援

JA広島市は、天候不順に伴う収量減や、米価格の低下、米の直接支払交付金の半減などによる水稲農家の収入減対策として、今年度に限り、つぎの通り緊急支援を実施します。

- 対象者:平成26年産米をJA広島市に出荷いただいた組合員。
- 支援内容:出荷米袋1袋(30kg)当たり、地域の作況により、195円・205円を直接支援いたします。平成26年12月3日までの出荷分に対して算出した額を12月25日に、平成27年3月31日までの出荷分に対して算出した額を4月24日に支援金として交付いたします。

「稲作経営安定緊急対策資金」やJA広島市営農資金「農援」等その他支援策については、JA広島市各支店、または各営農指導員へお問い合わせください。

突風による農業用シートの飛散に注意



農業用シート(寒冷紗・防虫ネットなど)が突風で飛散し、鉄塔や電線に接触して、広範囲が停電する事例が多く発生しています。風で飛びやすい物については、固定物にしっかりと結びつけるなどの対策をお願いします。

●飛散物の接触を発見したら、中国電力へお知らせください。

【連絡先】中国電力(株)広島北電力所

☎(082)810-0235